

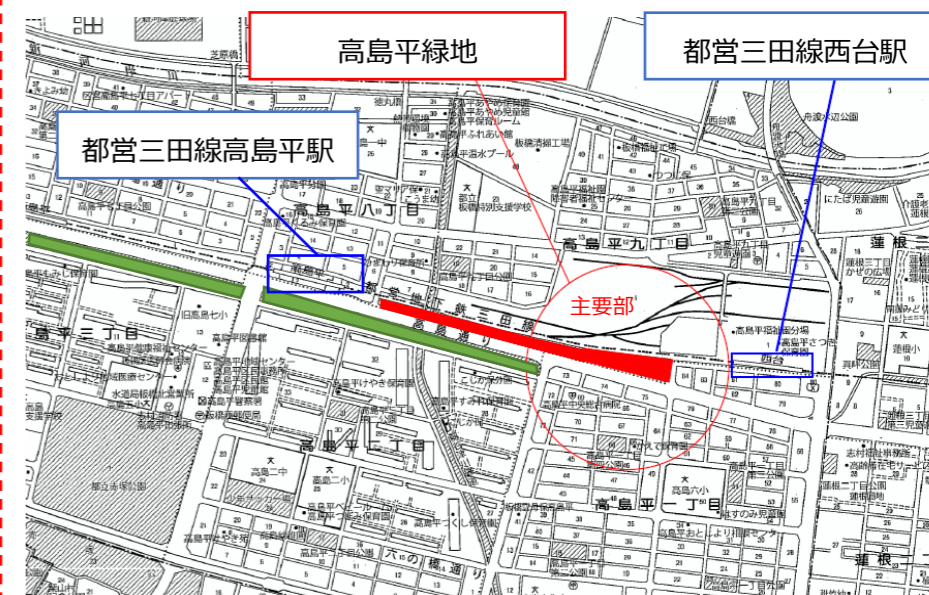
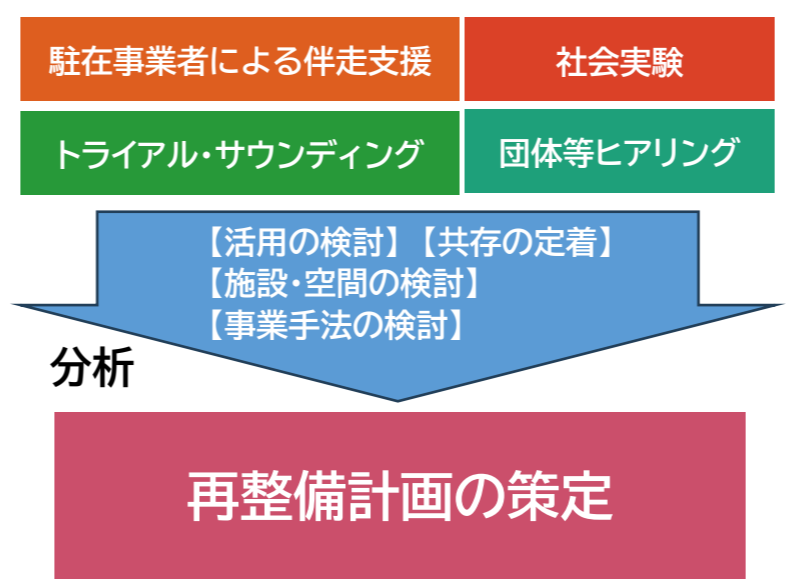
高島平緑地（高島平九丁目地区）再整備の進捗状況について

1 背景と目的

令和6年度に新たな時代のニーズに応えながら、上位計画である「高島平プロムナード基本構想」に掲げられた「みどり豊かな居場所」を具現化するための緑地全体の再整備方針（高島平緑地再整備方針）を示した。令和7年度から8年度にかけ、まず「高島平緑地（高島平九丁目地区）」をリーディングプロジェクトとして位置づけ、再整備計画を策定する。

再整備計画策定にあたっては、再整備方針を踏まえた様々な「社会実験」や「団体等ヒアリング」の実施に加え、「トライアル・サウンディング」の募集により民間の自由な利活用を通じ、緑地の「活用」可能性を実践的に探っていく。

策定期間中は受託事業者が現地滞在することで、地域住民や事業者など様々な主体の利活用のニーズに素早く応えつつ、最前線での意見集約を行っていく。



2 令和7年度の取組について

団体等ヒアリング

再整備基本計画策定に向け、高島平緑地や地域に関するニーズ把握・担い手発掘・社会実験の需要調査等を実施するため、住民・団体・事業者等18団体へヒアリングを実施した。

分類	ヒアリング対象
地域活動団体 (12団体)	周辺地区自治会長+居住者、プレーパーク実施団体、地域NPO法人、地元新聞社、隣接総合病院、ほか6団体
庁内関連部署 (2課)	高島平まちづくり推進課、健康推進課
その他団体 (4団体)	一般財団法人日本緑化センター、淑徳大学 経営学部観光経営学科ほか2団体



←ヒアリングの様子

社会実験

1 定期実験

団体ヒアリングの結果等をもとに、毎月イベント形式の実験を行った。毎回テーマや想定対象を変えることで、多角的な視野から知見を得ることを目的に様々な試行を行い、令和7年11月から令和8年3月の期間で計5回実施した。

回/開催日	イベント名/来場者数/概要
①11/29～30	「りょくちであそぼう！2025」/計461人/あそび場、居場所づくりの試行
②12/21	「みんなでつくる光のりょくち」 392人/ イルミネーションづくり等を通じた夜間利用の試行。
③1/24	「高島平 GREEN TALK & CONNECT」 /168人/地域関係者・事業者との交流やトークセッションの試行
④2/21	「りょくちでととのう みんなの健康」/181人/「健康」をテーマとした試行
⑤3/15	「りょくちでつくろう！」 /415人/グリーンスローモビリティの試行、コミュニティファームの収穫体験

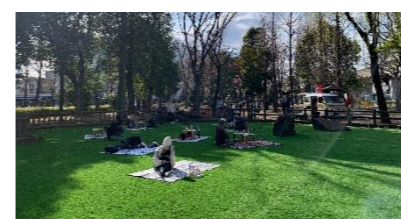
2 常設実験

継続的に効果検証が可能なコンテンツ等、常時集客につながるものとしての需要を把握し知見を得るために、常設的な実験を実施した。令和7年度は、「緑地内での農園試行」、枯れた水景施設であった「西台池の人工芝化試行」の大きく2つを試行した。



←農園試行の様子

西台池の人工芝化試行→



トライアル・サウンディング

高島平九丁目地区を利用した提案を民間事業者や地元団体及び個人から募集し、実際に施設を暫定利用してもらうことで公民連携によるにぎわい創出や多様な利用の可能性を探るために、令和8年1月よりトライアル・サウンディングの募集を開始した。

令和7年度 1団体実施
(地元団体によるアウトドア体験試行)
令和8年度 4団体申請済 ※4月8日時点

駐在職員による伴走支援

緑地内に駐在職員（通称：グリーンプレイスコーディネーター）を配置し、社会実験やトライアル・サウンディングの企画、運営等を行う。現地で直接、人や民間企業等の声を聞きながら、必要な支援を行うことで、人と地域と緑地をつなぐ役割を担う。



3 令和7年度に見出した課題と対応策（案）について

各取り組み実績から、再整備方針を踏まえ「居場所」、「みどりの在り方」、「管理運営・ルール」ごとに整理し、今後の再整備や管理運営に向けた主な対応課題と、その対応策（案）を検討した。

分類	把握事項	課題	再整備方針を踏まえた、対応策(案)	
居場所	拠点	<ul style="list-style-type: none"> にぎわいや交流が創出される施設のニーズがある 使いやすいトイレや手洗い場及び照明の整備ニーズが高い 	<ul style="list-style-type: none"> にぎわいと多世代交流を促す場を設置する必要がある 使いやすいトイレや照明等の設備面の改善を行うことで、ホスピタリティの高い公園にする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方がワークショップや交流活動等を行える場の検証 具体的な利用を想定した、誰もが使いやすいトイレや照明等、改修及び新設が必要な公園施設の抽出
	子ども・遊び	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の保育園から遊具や自然を生かした体験活動のニーズがある プレーパークやアスレチック、ボール遊び場のニーズが高い 幅広い年齢層が遊べる場所が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びやすい遊具設備やプレーパーク等の実施機能を整える必要がある 年代を問わずに遊び・交流できる場を作る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣保育園と連携した、協働による遊びの場づくりの検証 多様な主体によるプレーパーク等の遊び場の実施検証 小学校高学年以降の児童・生徒達の居場所となる施設及び設備の検証
	水	<ul style="list-style-type: none"> 既存の水景施設(水流)の活用ニーズがある 水遊び場のニーズが高い 	<ul style="list-style-type: none"> 流れや水遊び等を活用した居場所を作る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の水景施設(水流)の再稼働及び活用の検証 九丁目エリア外を含む高島平緑地全体での水遊び場の配置検証
	文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> 音を出すイベント(音楽・ダンス等)のニーズが高い 活動者の活動資材等のストック場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> 文化・芸術活動ができる場として、必要なルールや設備を整える必要がある 地域の活動団体を緑地とつなげる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽・アートイベントを試行することにより、音量・満足度・苦情数等を分析したうえで、必要なルール及び設備の検証
	健康	<ul style="list-style-type: none"> 身近な健康づくりの場となる施設のニーズがある 体操やウォーキングイベント及びドッグランの満足度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 緑地に運動を目的に行きたくするような設備を整える必要がある 健康講座等の運営の担い手を発掘し、定着させる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 健康器具の設置やウォーキング距離表示の充実化や、健康づくりに関する担い手の発掘を含む場づくりの検証
	多様な草花	<ul style="list-style-type: none"> 菜園や花壇及びその場を通じた多世代交流ニーズが高い 季節を感じられる花、収穫を楽しめる畑のニーズが高い 	<ul style="list-style-type: none"> みどりを通じた多世代交流の場を整える必要がある みどりに親しみやすい機能を整備する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 菜園や花壇の常設実験 高島平緑地のみどりに親しみ、学べるアプリの開発・活用検証
<p>⇒ フレキシブルに利用できる広場と、ベンチ・トイレ等の滞在に必要な基本的な施設の整備に加え、仮設の施設・用具等の活用による、柔軟な居場所づくりが必要である</p> <p>★ 6つの「居場所」に対する区民のニーズに沿った、より具体的な検証を実施したうえで、必要な施設整備やサービスなどの再整備内容を具体的に検証する</p>				
みどりの在り方	<ul style="list-style-type: none"> 樹木の適切な管理に関するニーズが高い 菜園をきっかけとした、高島平緑地のみどりへの関心の高まりがある 	<ul style="list-style-type: none"> 季節や樹種、樹勢及び配置を踏まえた樹木の適切な管理手法を整え、みどりに関心向上につながる仕組みを作る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との協働管理及び植栽監理体制も含めた、管理手法の検討 高島平緑地を活用したみどりの啓発を行う手法の検討 	
	<p>⇒ 高島平緑地の特徴を踏まえた「みどり豊かな居場所」の具体的な整備内容の明確化を行うとともに、みどりの啓発や住民参画型の植栽監理・協働体制を構築することが必要である</p> <p>★ 現在の樹木の生育環境・管理状況を調査・確認したうえで、緑地の将来像を意識した植樹や、維持管理(監理)モデルを検証する</p> <p>★ 菜園などを活用したみどりの啓発を継続的に行うことで、「みどりの協働体制」を構築するための検証を進める</p>			
管理運営・ルール・その他	<ul style="list-style-type: none"> 火の使用やボール遊び(卓球含む)へのニーズが高い 管理事務所(常駐者)のニーズが高い この緑地で何ができて、何ができないかが分かりづらい 	<ul style="list-style-type: none"> 再整備後の新たな管理運営体制を構築する必要がある 利用者が安心して緑地に滞在できる仕組みを作る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体との協働による新たな維持管理、運営手法の検討 駐在者や地域の方々による見守り活動の検証 	
	<p>⇒ 多様な主体との協働による運営体制と、具体的な運営・利用ルールを構築する必要がある</p> <p>★ 社会実験等で得た知見を踏まえ、管理運営体制の検討を進める</p> <p>★ 地域住民や団体等から構成される協議会の設立や、駐在者による中間支援体制などを視野に入れながら、「緑地利用者とともに運営・利用ルールを構築する仕組み」を検証する</p>			

4 令和8年度の取り組みについて

日常の緑地を多様な利用者が「活用」しやすくなるような工夫を検討するために、社会実験等の活動を本格化していく。
 また、高島平緑地のみどりの機能を高め、育てていくための将来の植栽監理のあり方のほか、再整備に向けた事業手法等について検討を重ね、計画策定に反映していく。
 計画策定にあたっては、九丁目地区をリーディングプロジェクトとして位置付けていることを意識し、それ以外の高島平緑地エリアへの次の展開も見据えた計画としていく。

5 今後のスケジュール

令和8年12月迄	社会実験等の実施
令和9年3月	再整備計画策定
令和9年4月以降	再整備計画に基づき、設計、工事 九丁目地区以外の展開検討